



雪たねニュース

北海道版 No.274

今月の主な目次

- 哺育・育成の注意点
- 冬期間の良質堆肥作りの留意点
- TMR (完全混合飼料) 設計のポイント
- 単味飼料の利用方法
- スノーエックスの上手な活用事例
- 白い活性炭エスカリウ

時の話題

会社創立五〇周年を 迎えて

未だ戦後の混乱が残る昭和二十五年雪印種苗株式会社として創立以来、おかげさまで本年十二月十五日で満五〇周年という節目を迎えます。これひとえに、長年にわたりご愛顧賜りました皆様のおかげと、心から感謝とお礼を申し上げます。

種苗事業そのものは昭和十六年(興農公社)にスタートしており、起算いたしますと創業六〇年目を迎えることにもなります。

酪農開拓時代の先人達の知恵を受け継ぎ大地とともにあつた半世紀の間、皆様に支えられながら一貫して創業の理念と社是(健土健民・農業奉公)の追求に努め、飼料作物の開発と普及、経営基盤の変化に対応した配合飼料の供給、土づくりを基本とした農業への取り組み、更には国土保全・環境緑化を促進する事業など、時代のニーズに応えるべく皆様のお役に立つ愛される企業を目指してまいりました。おかげさまで弊社事業も順調な発展を辿ることができ、重ねて感謝申し上げます。

さて、二一世紀を目前に社会経済環境は大きく変化してまいりました。農業界に於いても農政改革に見られるように、食の安全性・環境問題が今日の課題として、農業経営上大きな要素として捉

えられております。弊社としては従来の研究開発の充実を図るとともに、この機会に一步踏み出したバイオ・リメデイエーションの可能性追求を重要テーマとして考えております。

このバイオ・リメデイエーションとは、もともと自然界に存在する生物の作用で環境を改善していくことを意味します。弊社ではこのバイオ・リメデイエーションの多大な可能性を追求し、幅広い分野での研究を更に推進してまいります。

① 緑肥作物(線虫・病害対抗作物)の作用機序の究明と開発

② 環境にやさしい天然由来の植物生長調整物質の研究開発

③ 環境修景(エコ・アップ)

④ 種々の微生物資材の研究開発等々

自由化・国際化が求められる酪農畜産界、二一世紀は更に厳しい経営環境が予測されますが、弊社といたしましては、従来に増して研究と研鑽を進め、皆さまのお役に立てる企業として、更なる努力を傾注してまいりますので、今後ともよろしくご支援、ご鞭撻の程お願い申し上げます。

(常務取締役 長谷川 了)